

### ①ぶどう

宮崎県都農町のブドウの歴史は、1953年に植えられた一本のブドウの苗から始まった。都農では、年間降水量4,000ミリ以上で世界にあるブドウ産地の5~8倍もの雨が降る。さらに、収穫期には台風が襲来、強風で葉も果実も多大な被害を受けることになり、「雨の多い宮崎はぶどう栽培に適さない」と言われてきた。しかし、排水対策、防風林の植樹、ビニールトンネル栽培、棚作りの工夫など先覚者たちは苦闘しながらも次々に対応策を講じ、品種を更新し、都農の風土を反映するぶどうを育ててきた。こうして都農は「尾鈴ぶどう」の産地として県内外に知られ、昭和60年代には300軒を超えるぶどう農家が年間2000トンを生産するまでになった。

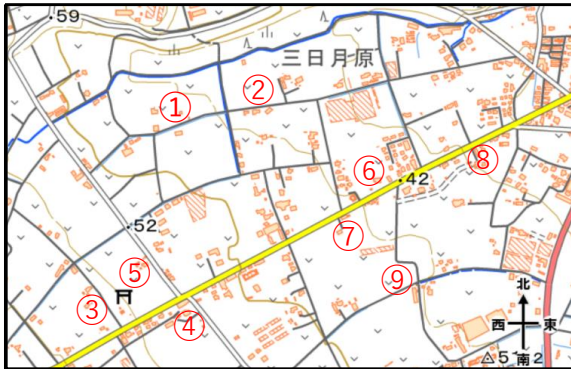
現在、地元産ブドウを100%使用して造られるワインは、地元の方々に広く愛されているだけではなく、国内外で高い評価を獲得するなど、世界に誇る高品質な日本ワインとして現在注目を集めている。

都農のぶどうは、少し早めの7月から夏にかけてがメインシーズン。道の駅には、たくさんぶどう農家さんが腕に力をかけたぶどうたちが並び、中でも、高い人気を集めるのが「シャインマスカット」。南国・宮崎で育ったシャインマスカットは、太陽の光を浴びて、驚くほど甘くておいしい果実に成長する。お昼すぎには、道の駅の売り場から姿を消してしまうほど人気があるそうだ。



### ②キャベツ

昨今の青果需要の減少に対して、加工用キャベツの栽培がふえ、2年前からは収穫後のキャベツが300kg超える鉄製コンテナによる契約出荷が始まり、現在ではキャベツ生産全体の約8割が加工用として出荷されている。私たちが見たものは五月下旬のキャベツであり、出荷目前の大きなものが多く、立派に育ったキャベツ畑があった。天気が良かったので青と緑のコントラストが美しかった。



### ③秀乃屋うどん

今年の5月、都農IC近くの三日月原にオープンしたうどん専門店。看板メニューの「野菜天ぶっかけうどん」は、地元産の野菜天が器からはみ出すほど大迫力の逸品。北海道産真昆布とかつおベースに4種類の天然だしを使い、12時間以上かけて作っただし汁と、厳選した3種の小麦粉を40時間熟成した独自のモチモチ麺と合わせて、三位一体の味を生み出している。



### ④ヤマザキショップ

野菜や果物だけでなく、お酒や店内自家製の惣菜など多くの品が販売されている。野菜や果物のほとんどが都農青果卸市場で仕入れた地元産の物である。また、販売している酒は種類が多く都農ワインも販売されている。



### ⑥開拓記念碑

国道40号線沿いにある公民館の敷地内に開拓記念碑がある。この石碑は、昭和初期の三日月原開拓事業にご総力を挙げた当時の組合員が俵石から全力一心搬入したものである。当時、碑を建立するに至らなかったことが惜しまれ、さ開拓50周年を迎えるにあたり、その偉業を永く後世に伝えるためにこの碑を建て、先哲への感謝と三日月原地域の発展の想いを示した。



### ⑦地域福祉バス

通学線路及び生活路線の確保のため町内を巡回している。つひよんや特産物などのデザインを施したラッピングバスの3台体制で、14人体制となっている。一人あたり1回200円で乗車でき、平日は毎日運行している。交通量の少ない地域ではフリー乗車ができるため、町民にとって欠かせない交通手段となっている。しかし、バスの便が非常に少なく、土、日、祝日は運休している。バスを利用する人が少ないためだと考えられる。



### ⑧サッカーチームの旗

都農町を拠点に活動しているサッカークラブヴェロスクロノスの旗。ギリシャ語の「矢」を意味する言葉「ヴェロス」とギリシャ神話の農耕の神「クロノス」という、ホームタウンである都農町を象徴する2つの言葉をクラブ名に用いている。このクラブはスポーツによる地方創生に挑み続け、2022年から数えて5年でJ3入りを目指している。育成型クラブとしても、継続的に人が育ち循環するクラブづくり・地域づくりを目指している。このクラブの応援タオルがうどん屋にも飾ってあり、地域に根付いていそうだった。



### ⑨茶

広大に広がる土地に各地で茶の栽培が行われていた。茶畑の上にある扇風機のようなものは「防霜ファン」といい、新芽の凍霜害を防ぐために地表付近の空気を動かす役割を担っている。広い土地を活かして様々な所で茶を栽培していた。



### ⑤三日月原神社

この神社は都農南小学校の西約800mの所に鎮座している。社殿り左側には境内社の秋葉神社があり、日の神が祀られている。毎年12月の第一週目に祭りが行われ、地元住民がしめ縄を作っている。昔は公民館の代わりとして利用されており、地域住民がここに集まっていた。そこで、踊りやカラオケをして楽しんだり、鍋やぜんざい、豚汁などを作ってみんなで食べたりしていた。また、「なほらい」と呼ばれている宴会が開かれたり、住民が各々作った野菜やお茶を持ってきて互いに配り合う場になっていた。しかし、現在は過疎化やコロナウイルスの流行により、祭りの開催が難しくなった。



### コメント

今回の実習を通して、コミュニティバスのことや地域のサッカーチームであるヴェロスクロノスのこと、キャベツ畑や茶畑、ビニールハウス栽培によるぶどう畑が多く見られたことなど、実際に現地へ赴かなければ分らなかった情報を得ることができた。また、探索をしていくなかで、地域住民と出会う機会が少なかったり、通り過ぎる車の運転手が高齢者ばかりだったり、都農町が抱えている少子高齢化や過疎化の問題を肌で感じた。三日月原神社について教えていただいた方も、少子化や過疎化の進行により住民同士のつながりが薄れているとおっしゃっていた。今回の実習で得た知識や課題、地域住民の方の声をこれからの学びや活動の場に活かしていきたい。